



門 赤 2
號 4799
1

言葉のやちゆ多序ハシラフミ

齊ウツより美ウツのやちゆ人さつりつもけりあり。まづて

やちゆもあびし。うたはてはまじりしむや

詞の道ぶざりきつるんぶ。そはつやるの書フミ

こそのもよまら流。強くもまき。うのぶ心と。飯

やちゆもあびし。そはまき飯のこころまへ。辞コトバ乃

まじりしむや。そのせりおひらけり。新アタラシ辞

Obanwanu H

101

昭和六年八月二日
野村堅氏

考へわさへ。此二卷^{ノタマキ}にあはれし〜出版し
られ。二巻をこめ。言察乃階れあやう
あるまじく〜と解入たせむるまじりみま
志る信又よひりりりたかくふ。文化三年
五月十三日。尾張^{ツバ}植松^{ハカリ}有信^{ウエマツノアリノブ}。

詞八衢上

本居春庭著

言察乃〜つた〜に〜も〜ん〜ま〜ぞ〜も〜く〜く〜く〜
ちれものや〜ひ〜は〜も〜察もそのほ〜ひ〜げ〜よ〜り〜て〜
察〜も〜ま〜ま〜あ〜ひ〜は〜も〜察〜も〜に〜ゆ〜え〜な〜げ〜も〜く〜
〜や〜ん〜ひ〜わ〜ら〜う〜流〜げ〜ら〜ろ〜と〜の〜や〜わ〜ら〜り〜よ〜つ〜は〜が〜ま〜ま〜
何〜も〜な〜く〜も〜い〜ゆ〜れ〜れ〜こ〜く〜あ〜人の〜こ〜ろ〜お〜ち〜〜は〜こ〜ろ〜た
〜ひ〜の〜く〜り〜く〜も〜信〜く〜ま〜は〜ち〜あ〜の〜せ〜〜り〜も〜こ〜ろ〜も〜あ〜れ〜こ
〜ら〜も〜い〜あ〜〜も〜ひ〜び〜や〜ま〜い〜だ〜〜ぬ〜も〜あ〜〜あ〜ぬ〜れ
ま〜の〜の〜ほ〜〜は〜わ〜ら〜ら〜ん〜し〜ら〜ま〜ま〜ぬ〜ま〜る〜ぬ〜律〜代〜より〜た〜の

○ヤチヤチ

〇一

○^{ハシラキコト}を信て右の信詞よを受てふとをれつやちやの音どころをく
 へんごぶされ大紙をあげたるなり又やなりおぞれやういゆ
 ころゆくやまひやまよふまへくよまをりやまひまひちやなり
 こころゆらちやまひゆるよりをうくるてふとをむねむねむねむ
 ーきむむむ後ものせむふなり

○四段の活ハ **あ** **ふ** **や** **わ** の四ひふは第一の音おはたはまら
 へんごぶされいひまを信とふぶたへんありあうぶあうぶあうぶ
 へんごぶされいひまを信とふぶたへんありあうぶあうぶあうぶ
 てハ信となむむふありその下おうられてふまは乃むむむむ
 信となむむふありその下おうられてふまは乃むむむむ

二段の活下二段の活ハ **さ** **た** **や** **ら** の四ひふは第一の音おはたはまら
 一の音よりうくるてにをむむむむむむむむむむむむむむむむ
 音きまらひみまを用言へんむくみや葉なりうくるてふまを
 きてつげまきむむむむむむむむむむむむむむむむ
 くむつむむむと切る詞を群言へんむくみや葉なりうくるてふ
 をむむむ二つともちひて切るむむむむむむむむむむむむむむ
 たりきらーこやを信くこも葉よやうられてふまをこハかひまを
 をよりむむむむまや四れ音けてへむまはをれ信詞あり受て
 ふとこハむむむむむむむむむむ

○一段の活ハ **さ** **た** **や** **ら** の四ひふは第一の音おはたはまら第二の音乃

○やちやてこ上

○六

の活乃才四の喜の活をねたどくこれ結びぬくうくるてふさま
そはよこせなるこゝろ

○下二段の活八十行のやぐくり才第三代まうくせつぬふむゆる
うハ四段のたうきれ才三の音れ切れくも柴乃てうふれ切ふて文
るてふををきれくをもちる形柴まこれ音かほくそをてつた
るハ四段のうきれ才三の喜の音言へばく詞の切たてうくるてふ
をさそをれうこつてよとと公用するなりまをさそを人たれハ四段
のうきれ才四の音やねたどくくそのむまひあや柴まうくうく
はてよととそへはふおや才四の喜えけせてねへうえまえハ四
段のうたうきれ才一の喜や才二の喜とと切ひく用まへ修く切うそ

うくるてにととそそのうきれ切ひく用する才一段の活乃いきにい
みハ中二段の活のきらひみいおこむおど
○さそひくうくるてふとと公用するにそ切てわ修くうきまうく
つくとと益のうきおも一人をある信々修くまてうくたてにと
はち果のうき横おらほわくもくもたうきまうくうきたぐく
ゆハ四種の活詞とわうちまうきまこれうくるてふとははもてまむれ
が肝要なれちうくつま一人去りむがならおれをさむてハぬそ
まハてよととを第一の音かさたてまらうりうくたハ四段の
らたうきまうく第二の喜いまらふひみいぬりうくたハ四
乃とたうきとと柴中二段の活とと柴こまうく才四れ喜えけせてねへ

○やちまうき上

○ハ

びぶく	そぶ	きぶく	やぶ
やぶく	ゆく	ゆぶく	ゆぶく
いぶ	わく	さく	わぶく
わぶく	まぶ	あぶく	まぶ
そぶく	そぶく		

○右に承たる河内記の○の字をつきさるる河の流の證と
下ふいりるまゝなり下み多分なり

○右にゆゑたる葉の外何れもさるるまゝなり
まゝのまゝなり

○あぶく 新撰字鏡小疏阿加久とり

○あぶく 源氏物語寄生小つやうてまゝなり

○あぶく 萬葉集三小阿倍すつりゆけは和名抄
喘息安倍岐枕草紙の芳なるものなり
くまゝなり

○あぶく 拾遺集物名小星れりゆくとりつる干載集
小あゆぐまゝなり

○いぶ 六帖四ふける日の子う修を御法系使ふくま
いぶを拾遺集別ふくくも衆同意いぶとす
は集意ふいぶをばり源氏物語桐壺ふいぶや
たりけし手習巻ふりてあぶくやうもあぶきや伊勢集

○うなげく 叶えお清さうなげくやあり

○かづく 万葉十ふもき可豆良伎十九小蔓可年す
可豆良父山まさ日け可豆良家流おびけサヤ

○かひろく 和名抄小舩如比路又注小舩不安也中ひるこ
乃こまきこまなつる

○きまわく 枕草紙ききくくろふのさそやあり

○きくろく う門不相清後落ふきく免きてこつたり

○くく 古事記上小ワがなふささより久岐斯子也万葉集

十七小歌このり多知久吉十九小立久久等こつらにうく

○くつろく 源氏みとつるふくはるくこころもけりくれど

若菜系冠のゆきまきくくはるきたるまきと枕草紙小く
ろぎくたでつたり

○くざく 住吉お清ふうくくはるまき集ぬのこまき

くまきつるおねなやあり

○けまやぶ 源氏松内けまきまきまねたり

○ころく 和名抄小嘶咽古路々久やけるこまあり

○そやく 後撰集上人そはるまきまきまきやり

○はく 万葉二言佐散久あり

○まごく 古今集おみ小ワがねのたふまごくまきまき

まきゆ丹後守為忠家百首小仲ふまきまきまき

日記にむすふひつらにくらひ。むすふ。むすふ。むすふ。むすふ。

○ひろきく 枕草紙よひろめがてこあや

○ふけく 日本紀ふ悲恨哭志愈むぎと免祭

○あぐく 蜻蛉日記よふ雨ゆつとぐくあぐあぐゆふ

史本集おゆのりてももたらうあぐあぐ

○ほごく 日本紀神代巻ふ神祝祝之やと免り

○まぐく 古事記中巻よ枕其後之脚膝萬葉集五ふ

人のあまのくわが摩久良可武あぐあぐ

○まごろく 字鏡よ眩目敷動白万志呂久とあぐ

○みとく 万葉三ふ繫身而麻之乎候松中細言とあぐ

新よこひまほとあぐゆと神のうかぬとや云にたあぐ

○みけく 万葉十八ようとゆつを美都久のむとくゆく

けう弥豆伎のりゆとくも回言タムベ

○ゆぐ 万葉二十ふ由良久おれとやあや

○ゆぐ 住吉物語よゆぎゆらまると樹葉集よゆぎゆらま

きたんや云いあぐあぐ

○よく 後撰集秋よ宿とよあや貫之集よよく

るき秋の良の月又よあぐあぐ

元真集はものねとよあこの萩の空はよけ蜻蛉日記よあ

道はよあぐあぐに杖衣三よあぐあぐあぐあぐあぐ

ひきよめ^〇ワ^〇ご^〇う^〇れ^〇海^〇川^〇百^〇そ^〇ふ^〇き^〇よ^〇ひ^〇き^〇よ^〇う^〇べ^〇り^〇け^〇く^〇ら^〇れ^〇
 〇那丹^〇板^〇守^〇為^〇忠^〇家^〇百^〇首^〇に^〇伸^〇正^〇ち^〇り^〇け^〇る^〇彦^〇治^〇と^〇い^〇む^〇せ^〇
 〇く^〇ほ^〇ん^〇に^〇な^〇ら^〇あ^〇を^〇け^〇て^〇の^〇詞^〇は^〇行^〇の^〇中^〇二^〇段^〇を^〇け^〇ら^〇
 〇きて^〇ま^〇全^〇く^〇お^〇お^〇け^〇き^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇
 〇ワ^〇や^〇ぐ^〇 枕^〇ま^〇あ^〇よ^〇ワ^〇や^〇ぎ^〇や^〇あ^〇り^〇
 〇ま^〇な^〇ぐ^〇 字^〇鏡^〇よ^〇喉^〇出^〇氣^〇息^〇呻^〇吟^〇也^〇惠^〇奈^〇久^〇
 〇と^〇く^〇 万^〇葉^〇十^〇七^〇小^〇呼^〇久^〇よ^〇の^〇と^〇に^〇な^〇ら^〇れ^〇ハ^〇捨^〇遣^〇葉^〇お^〇も^〇
 〇と^〇く^〇に^〇な^〇れ^〇ま^〇き^〇ま^〇よ^〇せ^〇む^〇せ^〇云^〇い^〇な^〇や^〇あ^〇り^〇
 〇を^〇見^〇く^〇枕^〇ま^〇あ^〇と^〇う^〇け^〇ば^〇や^〇あ^〇り^〇
 〇万^〇葉^〇三^〇小^〇見^〇毛^〇左^〇可^〇受^〇仗^〇濃^〇十^〇四^〇つ^〇波^〇可^〇馬^〇可^〇毛^〇お^〇も^〇あ^〇り^〇ハ^〇

全^〇く^〇な^〇ら^〇れ^〇て^〇い^〇ま^〇き^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇
 〇例^〇も^〇ひ^〇く^〇又^〇ひ^〇く^〇た^〇く^〇枕^〇ま^〇あ^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇
 〇詞^〇の^〇終^〇に^〇お^〇お^〇け^〇き^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇
 〇い^〇ま^〇き^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇
 〇む^〇ら^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇
 〇う^〇ま^〇る^〇ハ^〇下^〇二^〇段^〇の^〇詞^〇を^〇多^〇く^〇引^〇お^〇せ^〇れ^〇た^〇や^〇

段の活詞

音

〇やちまじ上

〇二五

中二段の活詞

こめくると俗まよひさうこと不明あり

いんる

起

まどろ

終

なぐる

よくる

○いんる 懐吟日記一ふ志多中や打人といんる人といんるき
やこあふのこふてこめ活あるに兒あふてびててこめ河るねり
四段よも活ふてむらうまあふてこてこにんる

○なぐる 万葉心ふあふてこいハ奈木六呷とよふ十七よあふ
きこひりて奈具流れもなぐ又十九ふこあ奈疑年やなぐ
あふまをむて才二の音よりむのてにをぬらうくれの中二段
の活こぬの例こてい河え四段よこてこてこてこてこハサやてこ

○よくる 万葉九ふこるりまの興久列とわれをまうこ十ふよ
なる見こた興久流れをあふト古今集春ふこめ一もやと
ふばよせいふは好忠集よあ奈をふばどう所がものこり
あまよ山所をとりあふき人ハふられてつをれ枝よゆて
ふきちやてびく秘がふまのたしを才二の音よりうらぬハこ
れきたき乃格あま源氏竹川よむふう次まぬを路ふ又
ふたぬなまのあもあハ今撰和歌集ふうみててこいんる
のこやまはらうまをばふぬまうふれものふぞあをけるなまあ
い河も四段ふたうけにてこにんるあふ

○のくる 任吉相済小建くねりてこあり

○そぐる 萬葉集二ふつとさま波氣まはく作（作）留（留）わ

ぶをまこたふあり

○そふる うはか相済後下小きこえてたふ（たふ）あり

○源氏ものつる（源氏ものつる）にま

○ひーくる 源氏あまゆふにむひもひけり（ひけり）杖（杖）の使

衣（衣）二（二）むねもひー（ひー）る（る）やあり

○ひたくる 源氏復（復）にひたけり（ひたけり）そま（そま）ひち又若菜

ふり（ふり）ひたきてふれも（ふれも）げあき（げあき）ハ榮花（榮花）ものざり初花（初花）小

由（由）乃（乃）の使えい（の使えい）けくゆわ（けくゆわ）む（む）え（え）お（お）ぞ（ぞ）あり

○ほくる 源氏明石ふつとほ（ほ）く（く）わ（わ）く（く）云（云）ひ（ひ）が（が）程あり

○ほろくる 源氏堂にみちとつくり（つくり）わ（わ）げ（げ）て（て）や（や）ひ（ひ）を（を）ま

○むくる 万葉ふつとく（く）に武氣（武氣）た（た）り（り）若菜（若菜）の（の）ま

○やくる 万葉一にむ（む）ひ（ひ）ぞ（ぞ）所（所）焼（焼）こ（こ）よ（よ）先（先）案

○わくる うはか相済吹よ（吹よ）つきれ布（つきれ布）のわ（わ）る（る）た（た）る

○わくる 万葉五（五）和和氣（和和氣）ふ（ふ）り（り）や（や）ま（ま）あり

○古事記中巻歌ふたつ波氣（波氣）ま（ま）と（と）万葉十四（十四）あ（あ）を（を）ね（ね）一

奈久流（奈久流）下（下）ふ（ふ）く（く）あり（あり）あ（あ）れ（れ）く（く）は（は）こ（こ）の（の）せ（せ）な（な）り（り）ゆ（ゆ）る（る）物（物）の

なる（なる）に（に）て（て）こ（こ）の（の）話（話）こ（こ）ば（ば）ち（ち）あ（あ）ら（ら）ぬ（ぬ）ま（ま）け（け）る（る）よ（よ）お（お）り（り）る（る）も（も）ほ（ほ）る（る）

せ源氏（源氏）も（も）智（智）ふ（ふ）つ（つ）け（け）る（る）り（り）ん（ん）は（は）ほ（ほ）る（る）ま（ま）も（も）あ（あ）る（る）ま（ま）い（い）せ（せ）の

○やちまこ上

〇三十八

○おびや七字鏡と憎又脚於此也須とらるるこれのまに外ふ
なりて一に加の字れ既たるふはけり

○おびやうと 係氏系をよおびやうたまごあせ

○おやも万葉十八ふすれ於保之同二十ふあでけ於保佐牟

まことみう於保世流六帖二又云とるをちやうけりやあう

りたづの村をまよるがやうすねのまやにまふせりま

もけりうくちやせりまてきてあひの音よりるま世のてふ

まをけうするは四段の信河のついで後三種のこころま

まよへの例なり

○おやがす うつはゆ法後法をふたよけりまあせ

○かたも日本紀神代巻に鍛作新鉤云々三代實録十八

改鏡益神室為真觀永室常乃鑄錢司路遠妨多亦依天

加太之於山城國葛野郡天令鑄作云々といふなり

○かまのい 後撰集とせうとていふなりけりまにま

又うへにまかよりすのふくまにまをちなるけり人あは

まにま金葉集列くうみかへりまを任りあつたま

あまのいやにまをれいとちやうけりまをいひのま

うへにまをふま第三のまより下へけりまは四段の

信河の例に又トひのてまをいひ中一乃音よりるは四段

の信にまをたうとてまをいひまをまきたるまをいひ

こゝろあぢぢるはいしの下二匹あきほてまきしきり
かりれもこせ下二匹のこころふく〜〜〜

○あはれも万葉一仁寶播散麻思乎むやれサレ〜
え〜〜〜にたなだ下に〜〜〜

○こころと古今集ふえい〜〜〜心と〜〜〜
こころのて 源氏も些に〜〜〜か〜〜〜やあや

○こころを 催馬樂小藤を野の〜〜〜を志る月〜
あ〜林も〜れえ〜の

○〜〜〜のて 古事記上巻小 蹶散ケツサンあはれあ
〜〜〜と 出雲國造神賀詞小意志波苗志天云

○こころの 祈年祭祀詞小見ミ雲齊クモナ坐イせゆ〜
〜〜〜こころ〜〜〜十載集哀傷よむの〜
が〜とだあ〜〜〜

○ひ〜と 古事記上巻に治養とひ〜
ひ〜の 慈式神見た小むらあひ〜に〜
又係氏物治よひ〜き〜

○ひや〜う 佐や相清糸の使乃まふ馬〜
〜ひや〜情吟見た小馬も浦ふり〜
云、又本葉安はり〜れ〜ゆひきた〜

き〜ら〜あ〜
○やちま〜上
○三十九

○ふくぬ 金葉集意ふつりやを後のあられあつきれぢ
こひまらふをよ。いづるのあおこあや

○ほろろと 源氏若菜よひまほろろ。いづるあられよ

○ほろろと ちちくばあ清ふほろろ。いづるあられよ

○まぢいかに しのぼあ諸藤原君のまをいづるあられよ

か。いづるあられよ

○まぢいかに 袂衣二ふま。いづるあられよ

○まぢいかに 枕草集ふまのまをいづるあられよ

いづるあられよ

○まぢいかに 後撰集いづるあられよ

忠集ようきけりもやせまれゆるん

○やうき 万葉集ふらうやうき人と和為跡まゝ二十

夜波之あぢよあや

○ゆるぎと 蜻蛉日記ふきゆるぎ。いづるあられよ

ゆるぎと 万葉集ふらうやうき人と和為跡まゝ二十

のよそなぢよあや

○まぢいかに 古事記下巻小説ヨロコビノミコトノミコト大日下王曰云。字鏡に詠よ

己須。萬葉集十二卷小人言之詠乎。いづるあられよ

いづるあられよ

○まぢいかに 万葉集十六ふらうやうき人と和為跡まゝ二十

あつ申小万葉十一小しを晩師之西のつる日と拾遺集にのり
てもぐりむりむりむ六帖ニまゝ六小なぞたほり
順集に西のむきと君やひり魚盤集より西の
乃山と板ばりほく免よま重之集にたまゆゑよひり
はり清心集にのりむりむり仲文集
今ハこそわいりむりむりむりむりむりむり
人ち云、まゝかゝるむりむりむりむりむり
ゆりむりむりむりむりむりむりむりむり
のまにあやむりむりむりむりむりむりむり
むりむりむりむりむりむりむりむりむりむり

あつ申小万葉十一小しを晩師之西のつる日と拾遺集にのり
てもぐりむりむりむりむ六帖ニまゝ六小なぞたほり
順集に西のむきと君やひり魚盤集より西の
乃山と板ばりほく免よま重之集にたまゆゑよひり
はり清心集にのりむりむりむりむりむりむり
今ハこそわいりむりむりむりむりむりむり
人ち云、まゝかゝるむりむりむりむりむり
ゆりむりむりむりむりむりむりむりむり
のまにあやむりむりむりむりむりむりむり
むりむりむりむりむりむりむりむりむりむり

ハ誤リカキ一本不^〇お^〇く^〇セ^〇ド^〇と^〇ある^〇ぞ^〇ん^〇の^〇例^〇を^〇の^〇あ^〇ひ^〇て^〇た

○^〇つ^〇れ^〇ま^〇れ^〇 万葉集十六に 枯^〇為^〇禮^〇と^〇あり

○^〇ま^〇ふ^〇ま^〇れ^〇 後撰集物名に 志^〇よ^〇せ^〇ぬ^〇 拾遺集意ふありぬ云

よ^〇せ^〇じ^〇又^〇志^〇よ^〇せ^〇ぬ^〇 落^〇く^〇ほ^〇ま^〇志^〇に^〇さ^〇ぬ^〇な^〇や^〇と^〇え^〇ん^〇を

○^〇た^〇え^〇も^〇る^〇 万葉十四ふた^〇ま^〇き^〇こ^〇そ^〇ひ^〇け^〇ぎ^〇多^〇延^〇須^〇禮^〇と^〇あり

○^〇ま^〇と^〇清^〇正^〇集^〇に^〇初^〇め^〇た^〇え^〇も^〇る^〇 ほ^〇く^〇ぎ^〇す^〇め^〇と^〇あり

○^〇つ^〇き^〇も^〇る^〇 源氏^〇流^〇歴^〇巻^〇に^〇つ^〇き^〇ま^〇ど^〇く^〇も^〇同^〇格^〇非^〇に^〇つ^〇す

ま^〇ど^〇く^〇 榮^〇花^〇御^〇供^〇島^〇辺^〇野^〇を^〇よ^〇つ^〇ら^〇ふ^〇事^〇に^〇 淡^〇松^〇中^〇御^〇を

御^〇供^〇ふ^〇け^〇き^〇ひ^〇ぐ^〇く^〇ま^〇り^〇ど^〇お^〇ど^〇り^〇を^〇ま^〇ど^〇て^〇ま^〇ど^〇こ^〇つ^〇 禱^〇

と^〇切^〇り^〇と^〇ま^〇ま^〇ら^〇う^〇う^〇ら^〇る^〇 例^〇を^〇

○^〇こ^〇え^〇も^〇れ^〇 萬葉十四小柳こえもれハ伴延須禮とあり

○^〇う^〇り^〇も^〇れ^〇 拾遺集意よひまきまのうりせとあり

下二段の活詞

い^〇も^〇る^〇と^〇俗^〇言^〇よ^〇い^〇せ^〇る^〇こ^〇つ^〇何^〇に^〇 伴^〇の^〇初^〇め^〇た^〇え^〇も^〇る^〇

あ^〇も^〇る^〇 あり^〇も^〇る^〇 ふう^〇も^〇る^〇 う^〇も^〇る^〇

お^〇も^〇る^〇 ね^〇も^〇る^〇 き^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇

さ^〇こ^〇え^〇り^〇も^〇る^〇 くら^〇も^〇る^〇 奥^〇せ^〇も^〇る^〇 くら^〇ま^〇ぎ^〇も^〇る^〇

あ^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 せ^〇も^〇る^〇 や^〇も^〇る^〇

な^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 の^〇も^〇る^〇

の^〇た^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇 ち^〇も^〇る^〇

いふれご志の四段は活きたるをさへいふのそなへ

○まわくも源氏桐壺とつとねまわく。せてあどれはや

○むもる 和名抄小哽咽無須。源氏あやのまにむさひ

むせ。うらそなごいんえたや

○古くまをさるるまごりもほる色のけまをたるあま

くは活句よりいぞそのよう **加** けの下二段の末よりつるま

くま。萬葉十五といくくは君を伊麻勢且くあつて国

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

